山　梨　県
商工会地区

# 中小企業景況調査報告書

〔平成17年４月～６月実績
平成17年７月～９月予測〕

未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

# 目　　次

Ⅰ　調　査　要　領 …… 1

Ⅱ　景　　況

１．産業全体の景況概況 …… 2

２．製造業の動向

⑴　景　況　概　況 …… 3

⑵　主な項目でみる業況 …… 3

３．建設業の動向

⑴　景　況　概　況 …… 6

⑵　主な項目でみる業況 …… 6

４．小売業の動向

⑴　景　況　概　況 …… 9

⑵　主な項目でみる業況 …… 9

５．サービス業の動向

⑴　景　況　概　況 …… 12

⑵　主な項目でみる業況 …… 12

# 【Ⅰ】　調　査　要　領

## １．調　査　対　象

⑴　対　象　地　区　　１０商工会

⑵　対 象 企 業 数　　１６５企業

⑶　回 答 企 業 数　　１６５企業

## ２．調査対象期間

第４四半期　　平成17年４月～６月期

調 査 時 点　　平成17年６月５日

## ３．調　査　方　法

県下の調査対象企業を１１商工会の経営指導員が訪問面接調査

## ４．調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

| 商工会名 | 製　造　業 | 建　設　業 | 小　売　業 | サービス業 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 塩　山　市 | 4 | 2 | 6 | 3 | １５ |
| 都　留　市 | 4 | 2 | 6 | 3 | １５ |
| 南アルプス市 | 4 | 2 | 6 | 3 | １５ |
| 北　杜　市 | 4 | 2 | 6 | 3 | １５ |
| 笛　吹　市 | 8 | 4 | １２ | 6 | ３０ |
| 鰍　沢　町 | 4 | 2 | 6 | 3 | １５ |
| 身　延　町 | 4 | 2 | 6 | 3 | １５ |
| 田 富 玉 穂 | 4 | 2 | 6 | 3 | １５ |
| 河　口　湖 | 4 | 2 | 6 | 3 | １５ |
| 上 野 原 町 | 4 | 2 | 6 | 3 | １５ |
| 計 | ４４ | ２２ | ６６ | ３３ | １６５ |

## ５．そ　の　他

本報告書のＤＩ値とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

## 【Ⅱ】　景　　況

### １．産業全体の景況概況

売上額の指標は、今期は「製造業」「小売業」「サービス業」では上昇したが「建設業」では下降した結果となっている。

「製造業」では平成16年７～９月期より二期連続して大きく下降していたが今期は上昇に転じた。

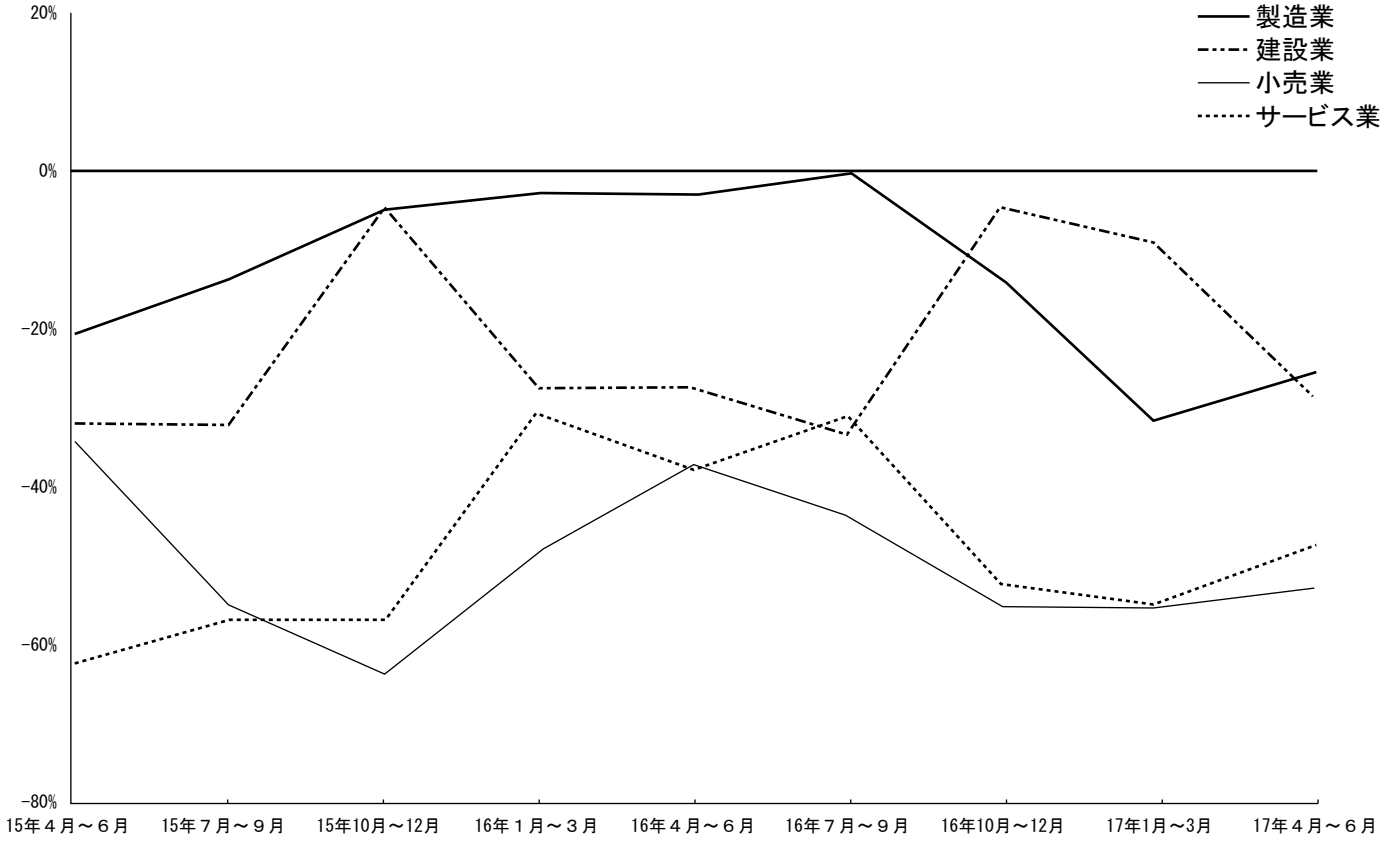
「建設業」では、経営上の問題点では「官公需要の停滞」を挙げる企業が今期は増えている。

「小売業」では売上額の指標は今期も引き続きわずかな上昇であり横這いであるが、製造業に比較すると低水準で推移している。

「サービス業」では経営上の問題点として「利用者ニーズの変化」を挙げる企業が「需要の停滞」より多くなっている。

山梨県　全産業

売上（完成工事）額の推移　－前年同期比－



# 2. 製 造 業 の 動 向

## 1. 景 況 概 況

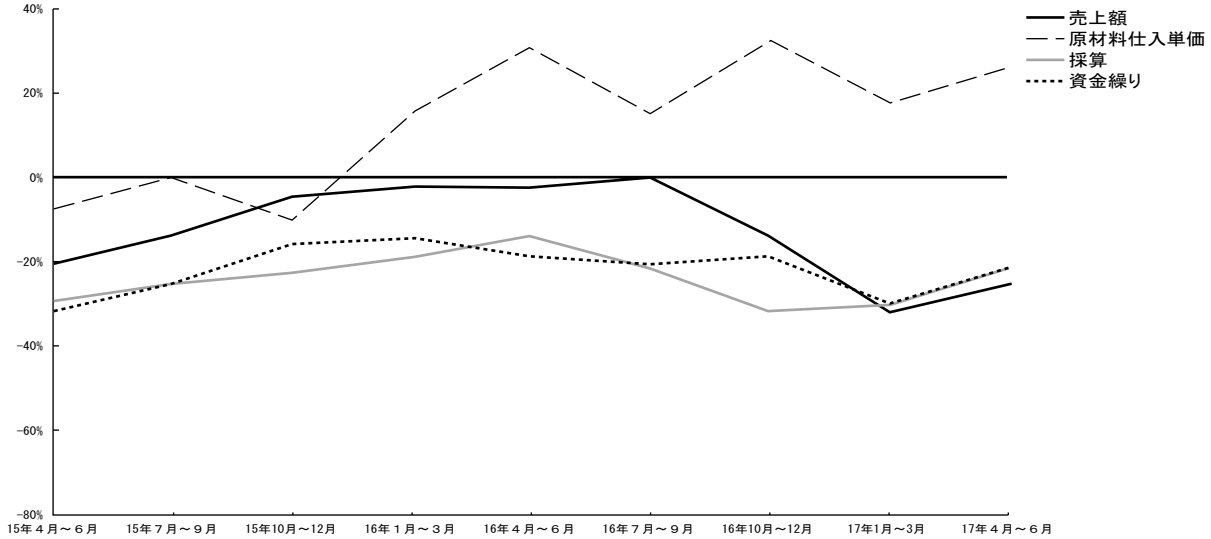
「売上額」は、今期は＋6.4上昇して－25.5となった。平成16年７～９月期より二期連続して下降していたが今期は上昇に転じた。

「原材料仕入単価」は今期は＋8.8上昇して26.3となった。平成16年１～３月期以降では変動はあるものの、前年同月比を大幅に上回る水準で推移している。

「採算」は前期より＋8.7上昇して－21.4となった。「製品（加工）単価の低下、上昇難」を経営上の問題点と挙げる企業は引き続いて一番多く、採算圧迫の要因となっている。

「資金繰り」は売上額の上昇もあり前期より＋9.3上昇して－20.9となった。

山梨県　製造業　　主要景況項目の推移－前年同期比－




## 2. 主な項目で見る業況

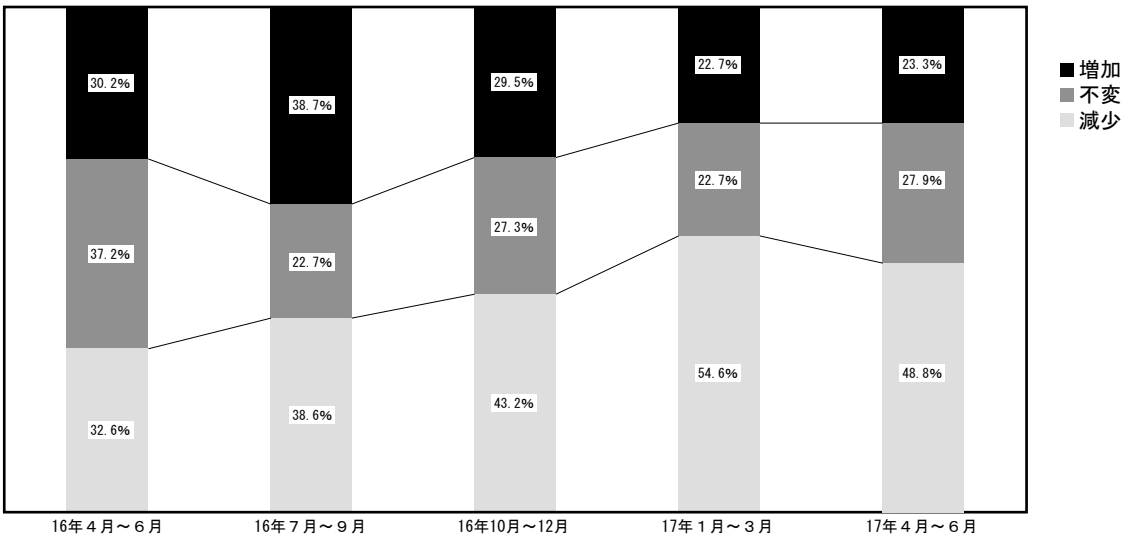
(1) 売上額

前期（平成17年１～３月期）より＋6.4上昇して－25.5となった。平成16年７～９月期を頂点として二期連続して下降していたが今期は上昇に転じた。

県内製造業の状況は（財）やまなし産業支援機構の「中小企業景気速報」平成17年６月号よると、県内景気は、一部自動車、デジタル機器関連で活況を呈する企業も見受けられるが、半導体、液晶製造装置、放送通信機器で依然受注量は薄く、全体的には弱含みな状況にあるとしている。

業界別では「鋳物・ダイカスト」「板金加工」「表面処理」でやや好調である。その一方では前期と同様に「プレス・金型」「組立加工」では通常であり「地場産業」ではやや低調であると報告している。

山梨県　製造業　　売上額の状況－前年同期比－



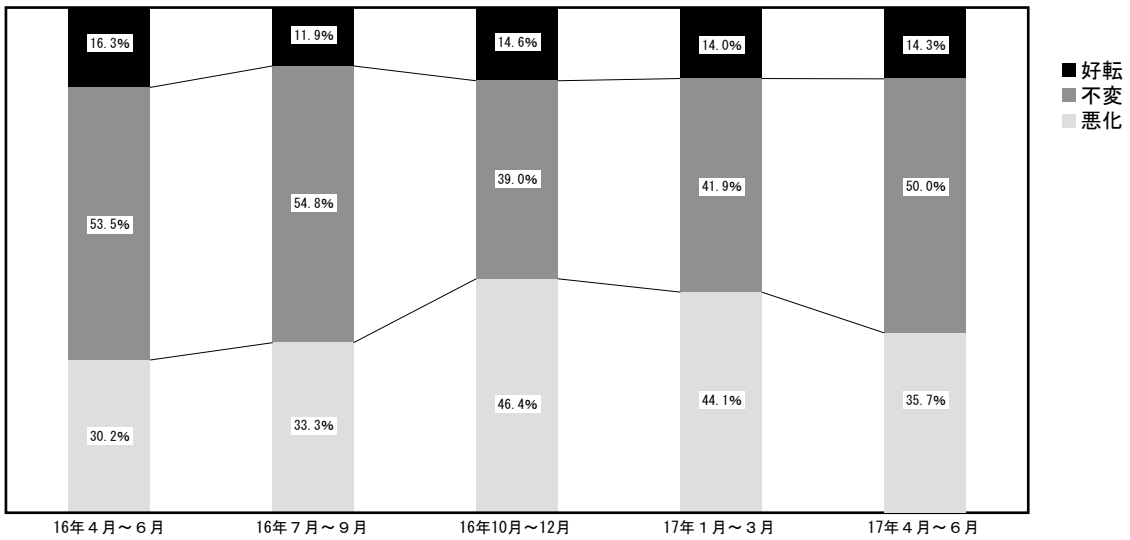
⑵　採　　算

売上高が好調であったことに連動して、前期より＋8.7上昇して－21.4と一定程度改善した結果となっている。

「従業員（含臨時・パート）」は今期も△5.0下降して－7.3となっている。少数精鋭で効率的な経営を目指す企業が多いものと見られる。燃料価格の値上がりなどの要因で「原材料仕入単価」は引き続き高い水準で推移しており、経営上の問題点として注視している企業は増加傾向である。

また「取引条件の悪化」を問題点として挙げる企業も増えてきており、適正な取引条件を求める企業も多くなっている。

山梨県　製造業　　採算の状況－前年同期比－



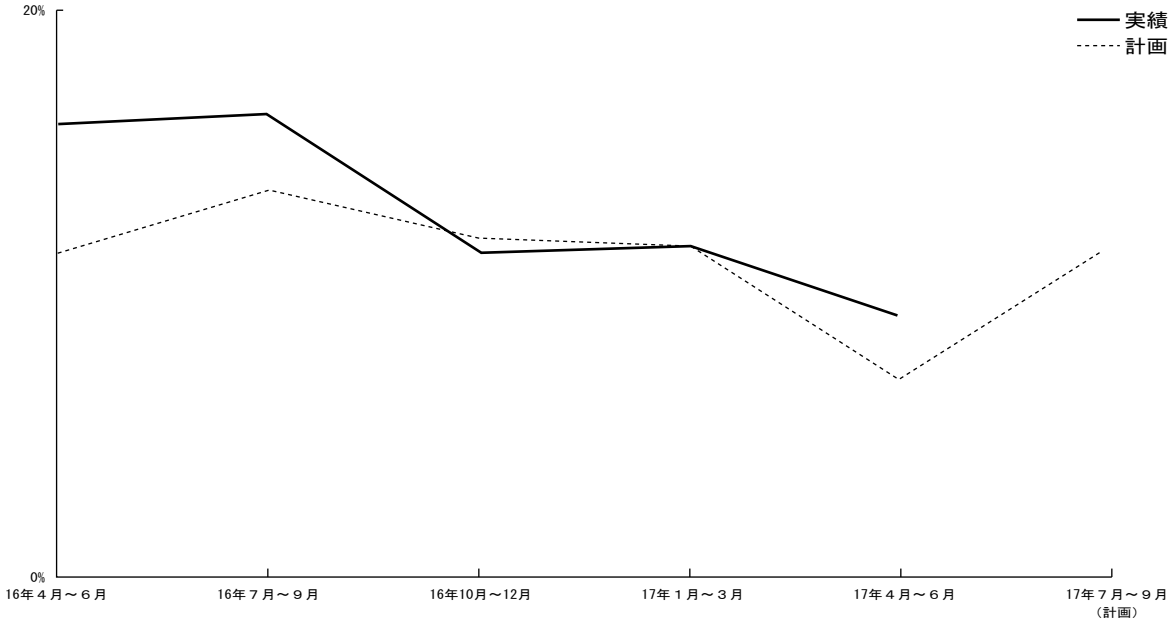

⑶　設備投資

「今期実施」は、前期より△2.5ポイント減少して9.1％の企業であった。計画していた企業は7.0％であったので実施した企業のほうが多いという結果であった。

設備投資した内訳は「生産設備」「車両運搬具」が50％であり、「土地」「工場建物」「ＯＡ機器」は25％であった。「付帯設備」については計画はしていたものの実施までには至らなかった。

「来期実施予定」は11.6％と、今期より増加する予定である。

山梨県　製造業　　設備投資の状況



⑷　経営上の問題点

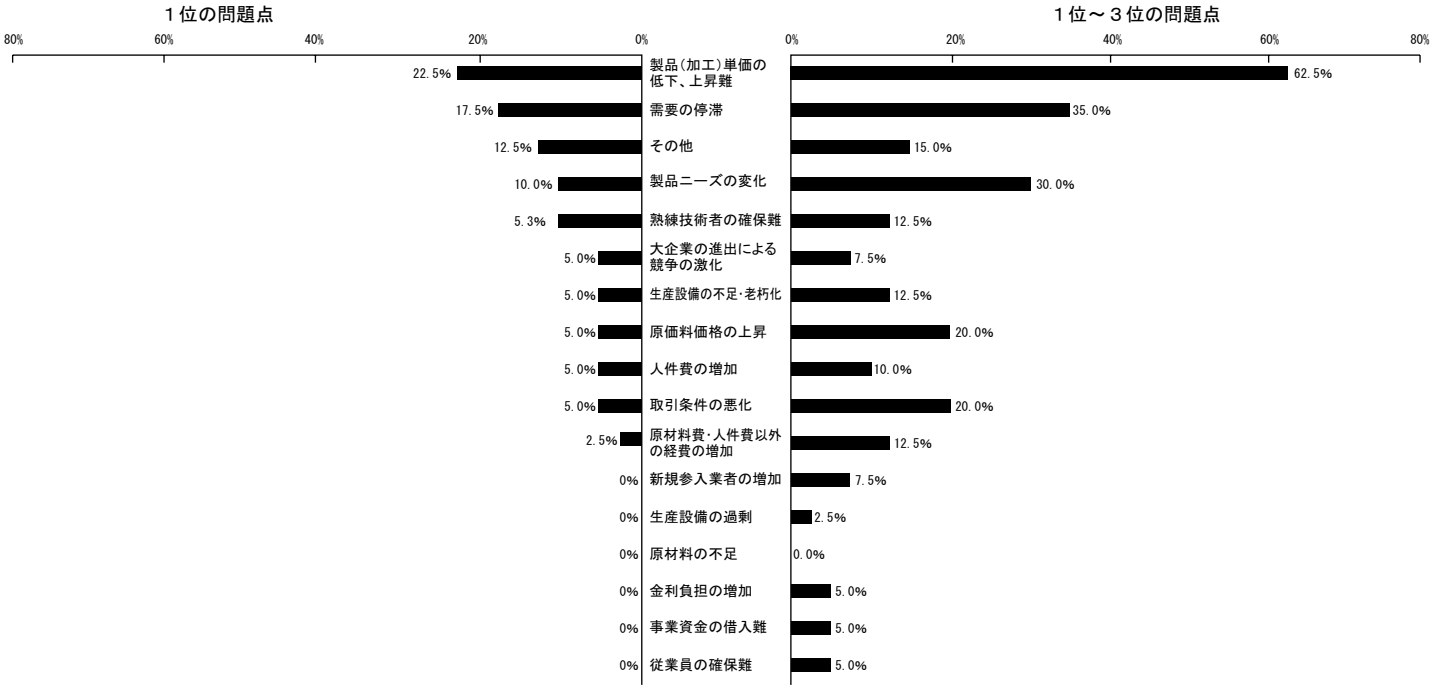
今期は「製品（加工）単価の低下、上昇難」が前期より△11.7ポイント減少して22.5％となったが、一番多い項目となっている。

二番目に多い項目は「需要の停滞」で前期に引き続き△11.4ポイント減少して17.5％となっている。

三番目に多い項目は「製品ニーズの変化」であり＋10.0ポイント上昇して10.0％となっている。

経営上の問題点として一位から三位までに挙げられる項目では「取引条件の悪化」が＋4.2ポイント上昇して20.0％であり、「原材料価格の上昇」も＋4.2ポイント上昇して同じく20.0％と共に四番目に多い項目となっている。

山梨県　製造業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



# 3. 建　設　業　の　動　向

## 1. 景　況　概　況

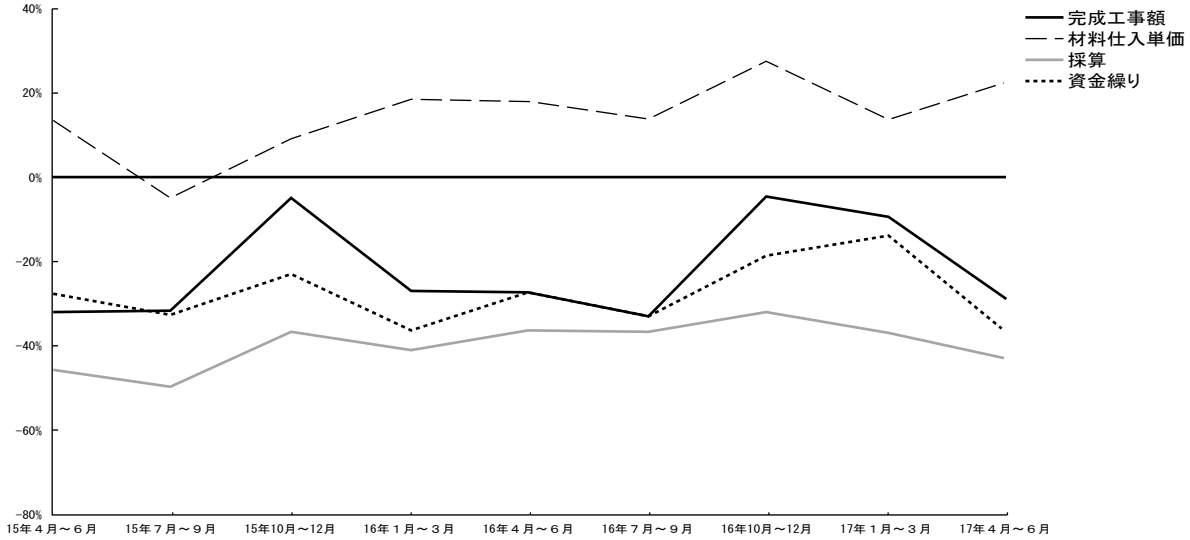
「完成工事額」は前期（平成17年１～３月期）より△19.6下降して－28.7となっている。前期に引き続き下降傾向となっている。

「材料仕入単価」は今期は＋9.0上昇して22.7と前々期と同水準まで上昇している。経営上の問題点では、「請負単価の低下、上昇難」が深刻な問題となってきており、経営にも低コストが要求され、創意工夫が必要となってきている。

「採算」は前期に引き続き△6.4下降して－42.8となっている。完成工事額に比較しても依然として低水準となっている。

「資金繰り」は今期は△22.7下降して－36.4となっており、二期ぶりに下降に転じた。

山梨県　建設業　　主要景況項目の推移－前年同期比－



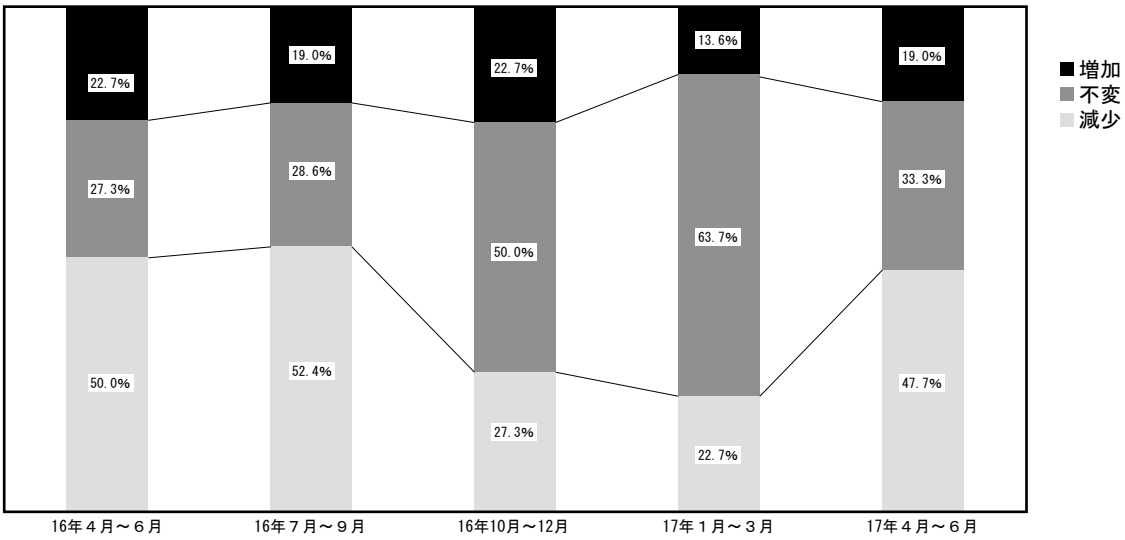

## 2. 主な項目で見る業況

(1)　完成工事額

前期（平成17年１～３月期）に引き続き△19.6下降して－28.7となった。経営上の問題点では「官公需要の停滞」を挙げる企業が増加してきている。

山梨県建築指導課で発表している新設住宅着工戸数では平成17年５月は総数で816戸で前年同期比で1.1%増であり２ヶ月ぶりの増加になったと発表している。内訳は持家が435戸で前年同期比△5.2%減であるが、貸家が335戸で6.3%増であり、分譲住宅は46戸で48.4%の増加になったと発表している。

山梨県　建設業　　完成工事額の状況－前年同期比－



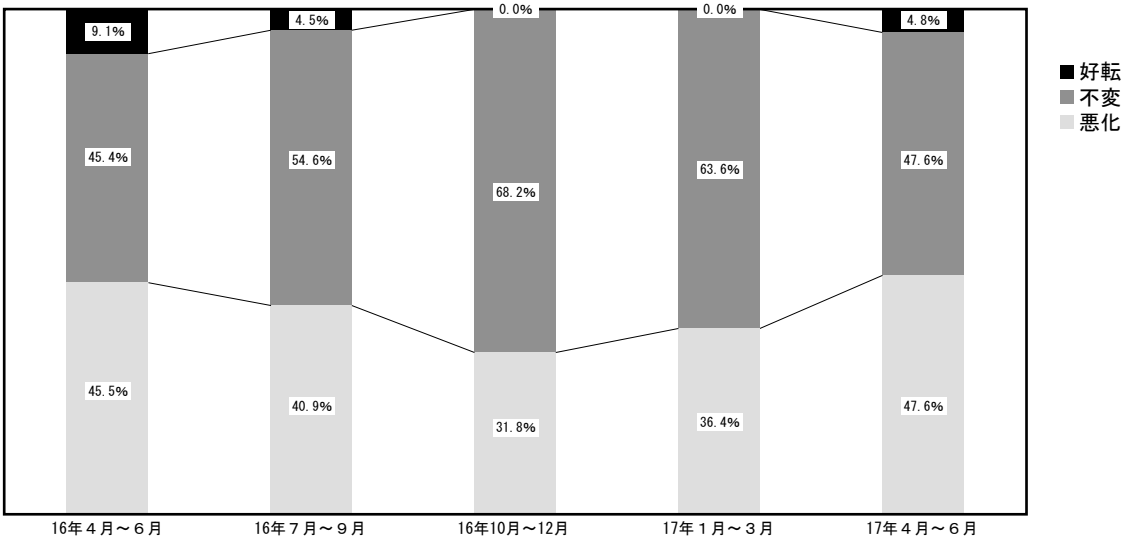
⑵　採　　算

前期に引き続き△6.4下降して－42.8となりさらに低水準となっている。完成工事額が低下したことに連動した結果と思われる。

「従業員（含臨時・パート）」は前期に引き続き△5.0下降して－10.0となっている。今期も少ない人員で業務を実施しており、緊縮型の経営方針で取り組んでいる企業が多くなってきているものと見られる。

また「材料仕入単価」も平成15年７～９月期以降連続七期、前年同期比を大きく上回る水準で推移しており、採算の悪化要因になっているものと思われる。

山梨県　建設業　　採算の状況－前年同期比－



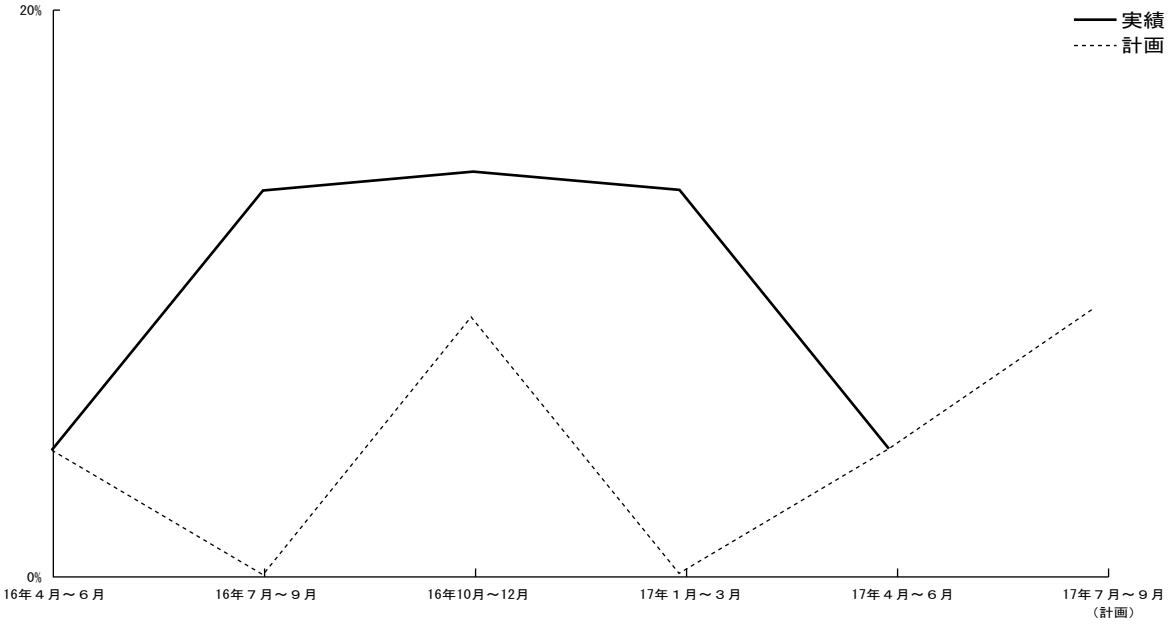

⑶　設備投資

前期より△9.1ポイントと大幅に減少して4.5%の企業が実施した結果となっている。

設備投資した内訳は「車両・運搬具」が100%であり「ＯＡ機器」は計画はしていたものの実施までには至らなかった。

「来期実施予定」は今期より増加する予定であり、9.5%の企業が計画している。

山梨県　建設業　　設備投資の状況



⑷　経営上の問題点

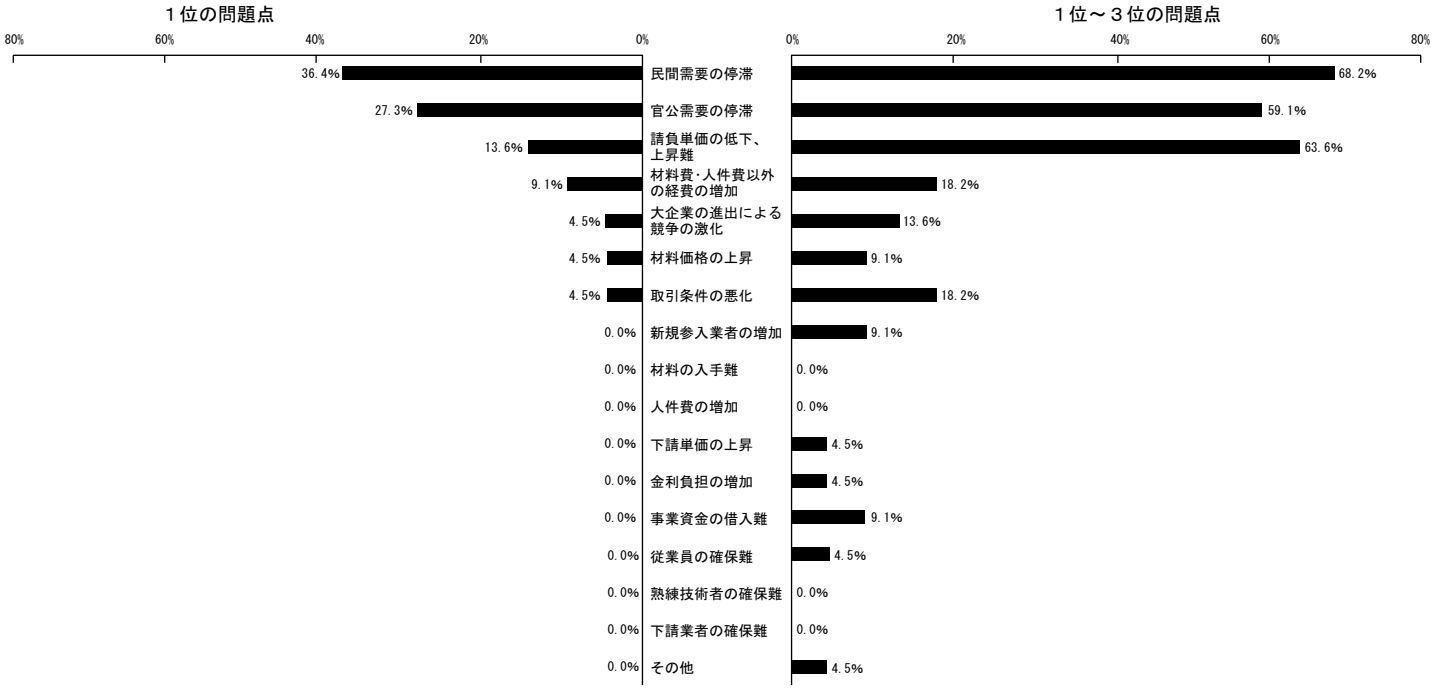
今期は「民間需要の停滞」が△13.6ポイント減少して36.4％となっているが、引き続き一番多い項目となっている。

二番目に多い項目は「官公需要の停滞」であり前期より＋13.7ポイント上昇しており27.3％となっている。

「請負単価の低下、上昇難」は＋4.5ポイント上昇して13.6％となり三番に多い項目となっている。

経営上の問題点で一位から三位までに挙げられる項目では「取引条件の悪化」が△4.5ポイント減少して18.2％、また「材料費・人件費以外の経費の増加」が＋9.1ポイント増加して同じく18.2％になり、共に四番目に多い項目となっている。

山梨県　建設業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



# 4. 小 売 業 の 動 向

## 1. 景 況 概 況

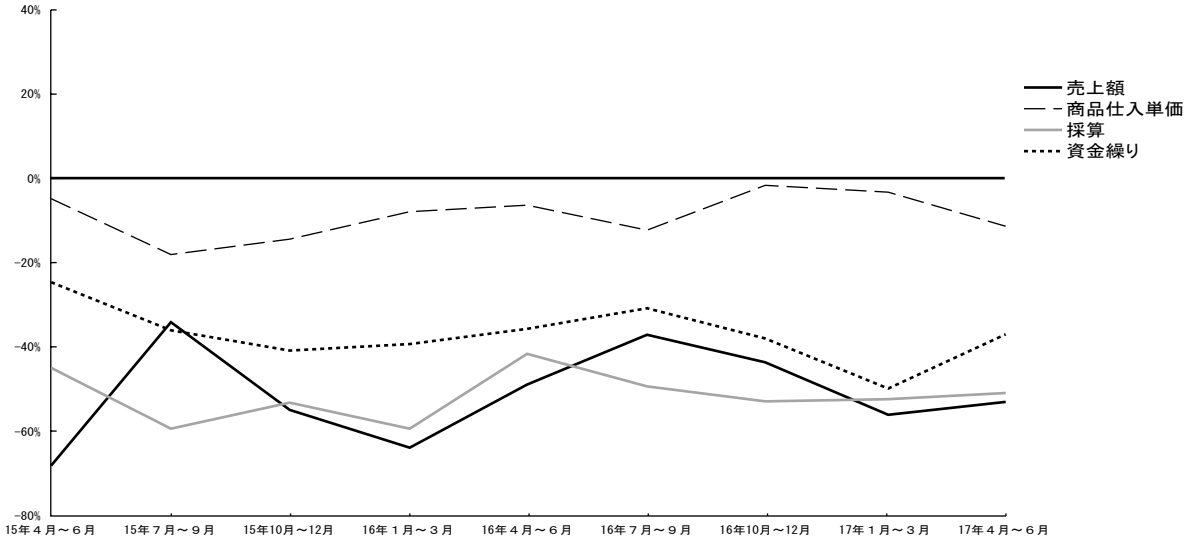
「売上額」は前期より＋3.3上昇して－52.4とわずかであるが改善した。しかし依然として連続三期ほど超低水準のままに推移している。

「商品仕入単価」は前期に引き続き△8.2下降して－11.4となっている。しかし、ガソリンなどの燃料価格は依然として高い傾向であり、全体の価格を上昇させている原因になっているものと思われる。

「採算」は売上高と同様に前期とほとんど変わらないが＋1.8上昇して－50.7と若干の改善となった。

「資金繰り」は前期より大幅に＋13.4上昇して－36.5と前々期並に改善した。

山梨県　小売業　　主要景況項目の推移－前年同期比－




## 2. 主な項目で見る業況

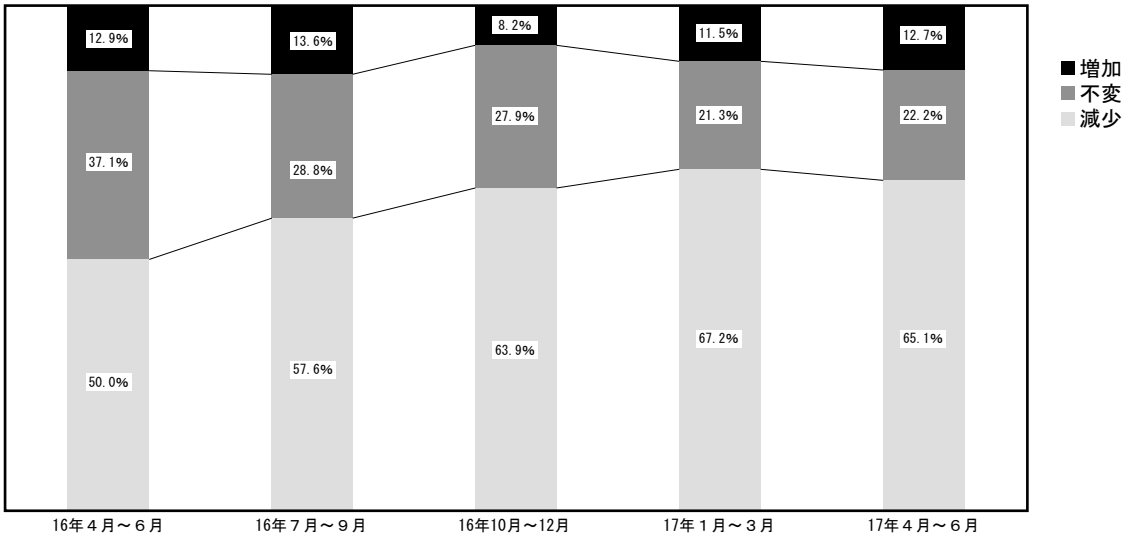
(1) 売上額

前期より＋3.3%上昇して－52.4となったが依然として低水準のままである。

「客単価」は前期より＋10.6上昇して－41.9「客数」も＋6.6上昇して－48.3となっており、改善傾向ではあるが、依然として前年同期と比較すると低い水準で推移している。

経営上の問題点では「大型店・中型店の進出による競争の激化」を売上減の要因として挙げる企業が前期よりは減少しているが、依然として一番多い項目となっている。「購買力の他地域への流出」も増加してきており、既存店として特色のある店舗づくりが必要となってきている。

山梨県　小売業　　売上額の状況－前年同期比－



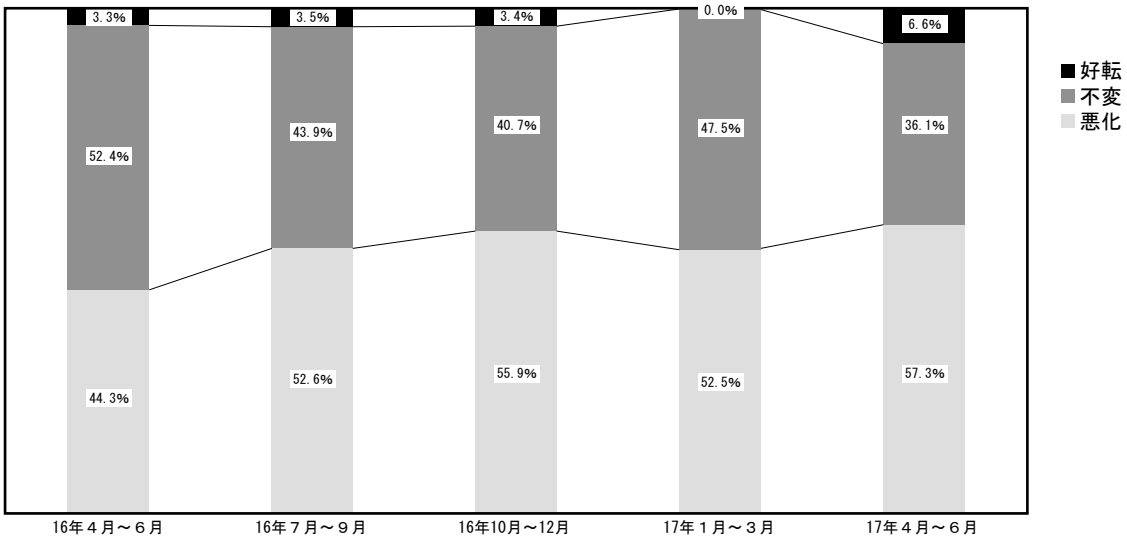
⑵　採　　算

売上高の指標と同じように前期（平成17年１～３月期）とほとんど変わらず＋1.8上昇して－50.7となっている。

「従業員（含臨時・パート）」の指標は＋2.0上昇して－2.0である。年度の切り替えによる新卒者採用等の影響により若干改善したと考えられる。

県内の百貨店や小売店では、夏のビジネス軽装（クールビズ）効果でワイシャツなど紳士服の売り上げが伸びている。梅雨明けの七月以降、平均して昨年同期の二割増しの売り上げで、各店でもシーズン終盤のさらなる売り上げアップを目指していると山梨日日新聞では報道している。

山梨県　小売業　　設備投資の状況




⑶　設備投資

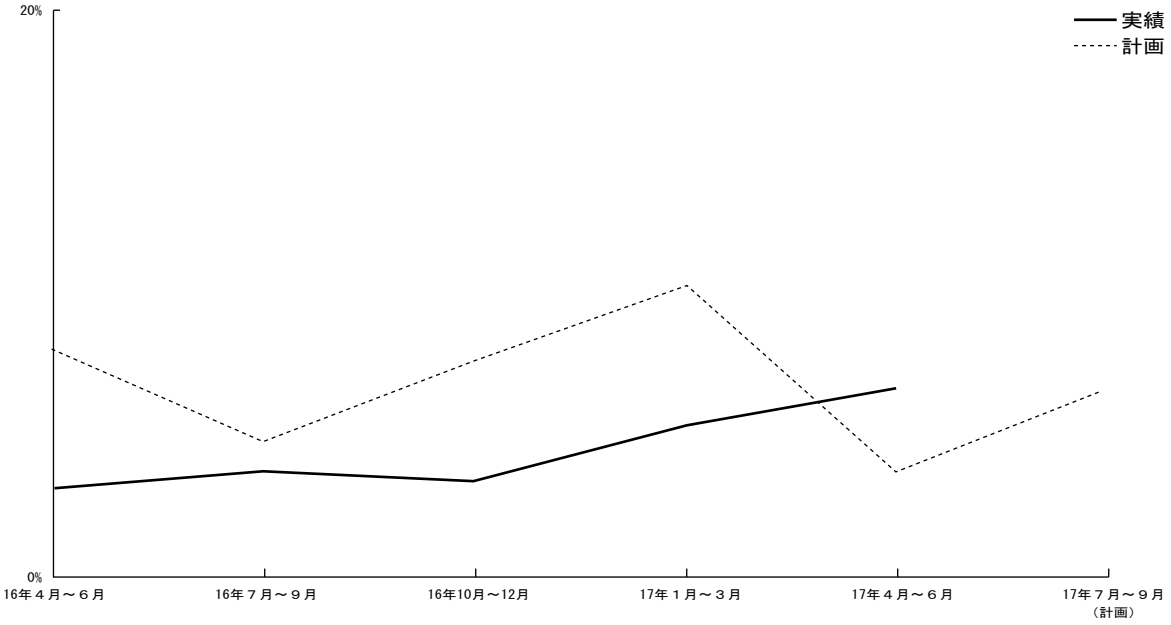
設備投資した企業は前期より＋1.3ポイント増加して6.7%となった。計画の段階では3.6%の企業であったので実施した企業は計画段階よりも多かった。

設備投資した内訳は「ＯＡ機器」が50%であり、「販売設備」「車両・運搬具」はともに25%であった。

「店舗」については計画はしていたものの実施までには至らなかった。

「来期実施予定」は6.7%と今期より計画をしている企業が増加する予定となっている。

山梨県　小売業　　設備投資の状況



⑷　経営上の問題点

「大型店・中型店の進出よる競争の激化」は今期△3.5ポイント減少したが37.9％と一番多い項目となっている。

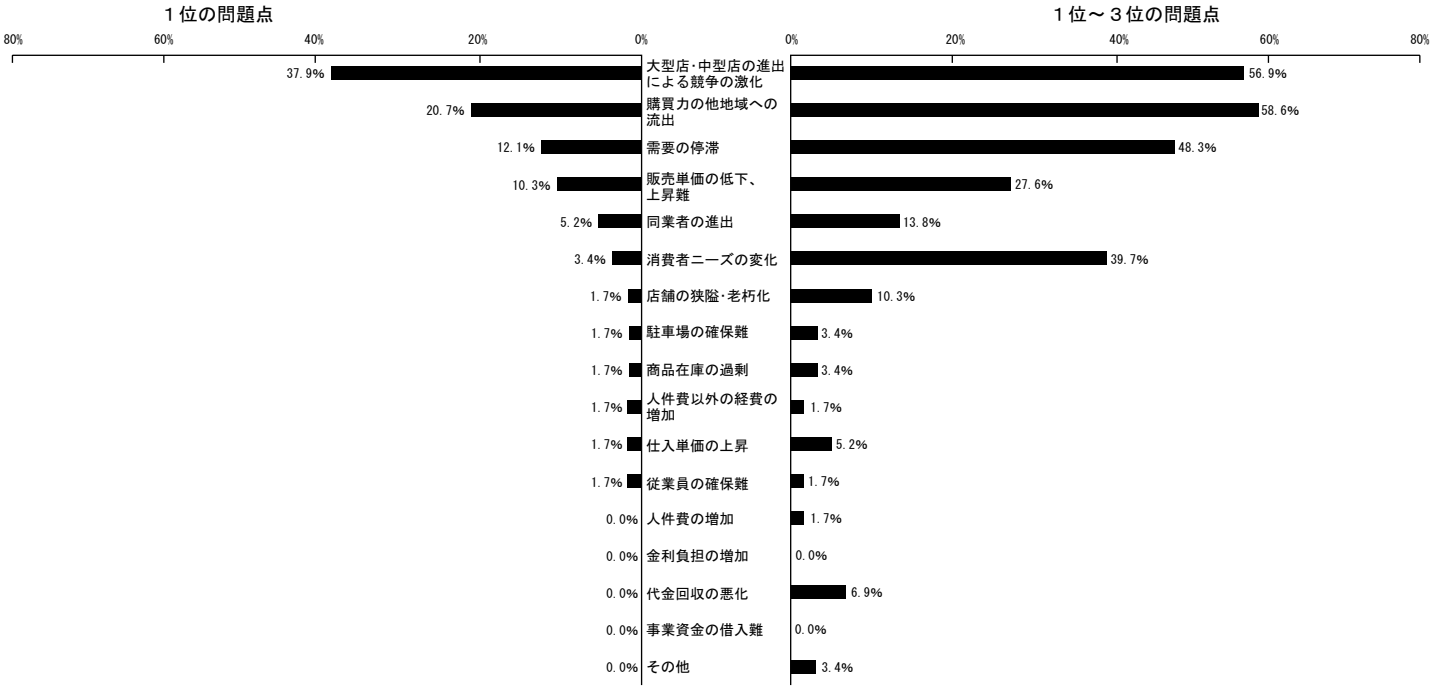
二番目に多い項目は「購買力の他地域への流出」であり＋1.7ポイント増加して20.7％となっている。

郊外型・複合型の大規模なショッピングセンターが建設されてきており、既存店には厳しい経営環境になってきていると考えられる。

三番目に多い項目は「需要の停滞」であり、前期に引き続き12.1％であった。

四番目に多い項目は「販売単価の低下、上昇難」であり＋3.4ポイント増加して10.3％となっている。

山梨県　小売業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



# 5．サ ー ビ ス 業 の 動 向

## 1．景　況　概　況

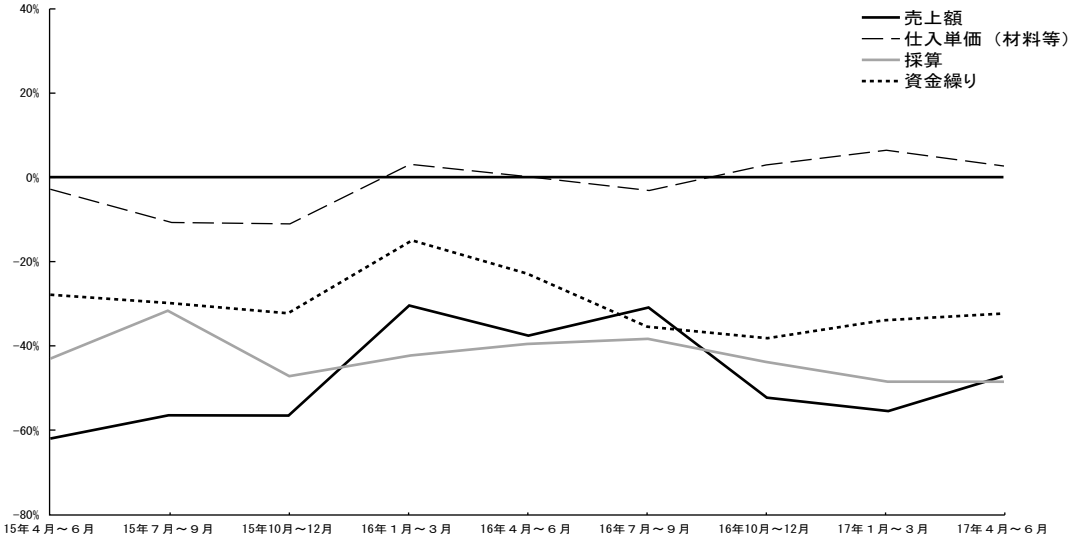
「売上額」は前期（平成17年１～３月期）より＋8.4上昇して－47.2と改善した。しかし依然として低水準の状況ではある。

「仕入単価（材料等）」は前期より△3.2下降して2.9となっている。燃料価格を中心に高い傾向であり今後とも注視していく必要がある。

「採算」については売上額が改善したにもかかわらず横這いであり△0.1下降して－48.6となっている。

「資金繰り」は今期は＋1.8上昇して－32.4となっており、前期に引き続き若干改善した結果となっている。

山梨県　サービス業　　主要景況項目の推移－前年同期比－




## 2．主な項目で見る業況

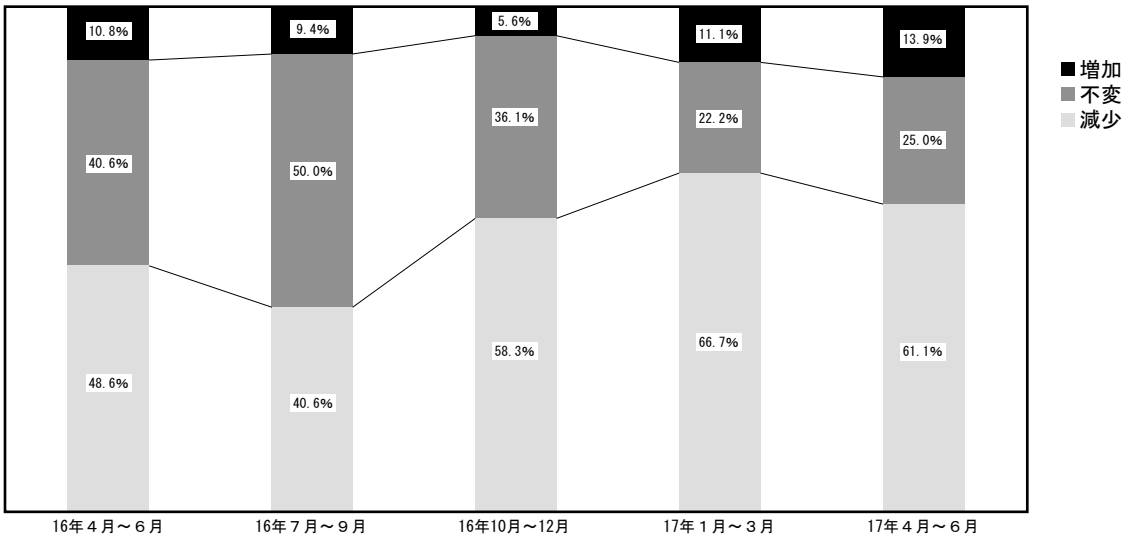
⑴　売上額

前期（平成17年１～３月期）より＋8.4上昇して－47.2となった。前期よりは改善したが依然として低水準となっている。

「客単価」は前期より＋3.9上昇して－36.1となり、「客数」も＋1.5上昇して－50.0となっている。両指標とも前期より若干改善した結果となっている。

経営上の問題点では前期に引き続き「利用者ニーズの変化」を挙げる企業が多くなってきており、今期は一番多い項目となっている。利用者のニーズを的確に掴み、経営に反映していく努力も必要とされてきている。

山梨県　サービス業　　売上額の状況－前年同期比－



⑵　採　　算

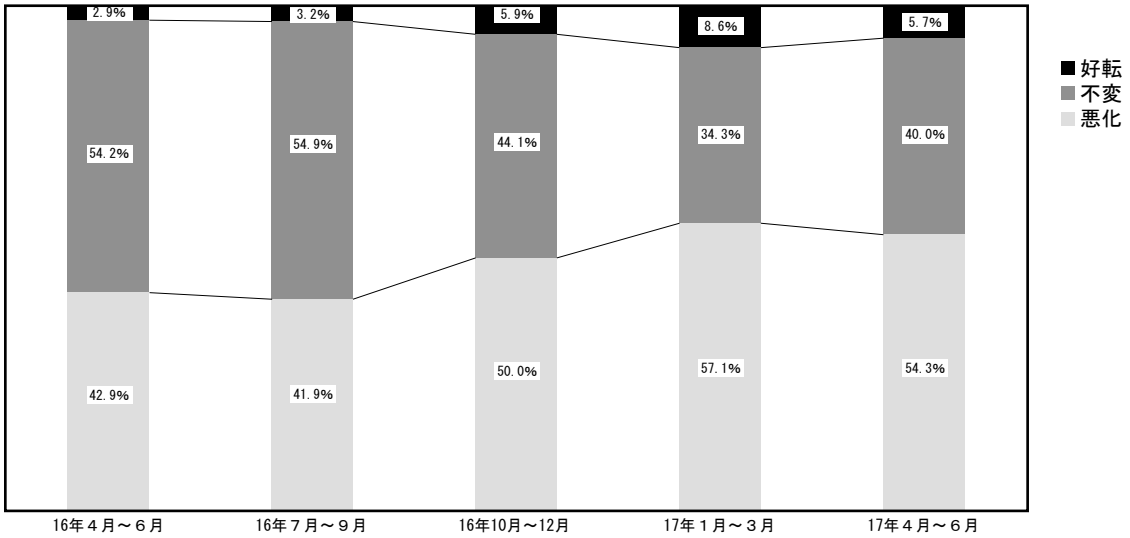
前期より△0.1下降して－48.6となった。売上額は上昇したが、採算ベースでは、あまり改善になっていない結果となっている。

「従業員（含臨時・パート）」は前期より＋10.0上昇して－9.4となっている。年度切り替わりによる新入社員などの増加によるものとみられる。

厚生労働省山梨労働局が発表した平成17年６月の有効求人倍率は1.05倍で、前月と同水準であり19ヶ月１倍台を維持しているとしている。有効求人数は前月とほぼ横這いの14,299人であり、有効求職者数は0.1％増の13,676人である。

全国的な統計では企業のリストラ一巡から男性の失業率も0.2％改善して4.4％に低下したと報告されており、今後は業界でも売上額の伸びが期待される。

山梨県　サービス業　　採算の状況－前年同期比－



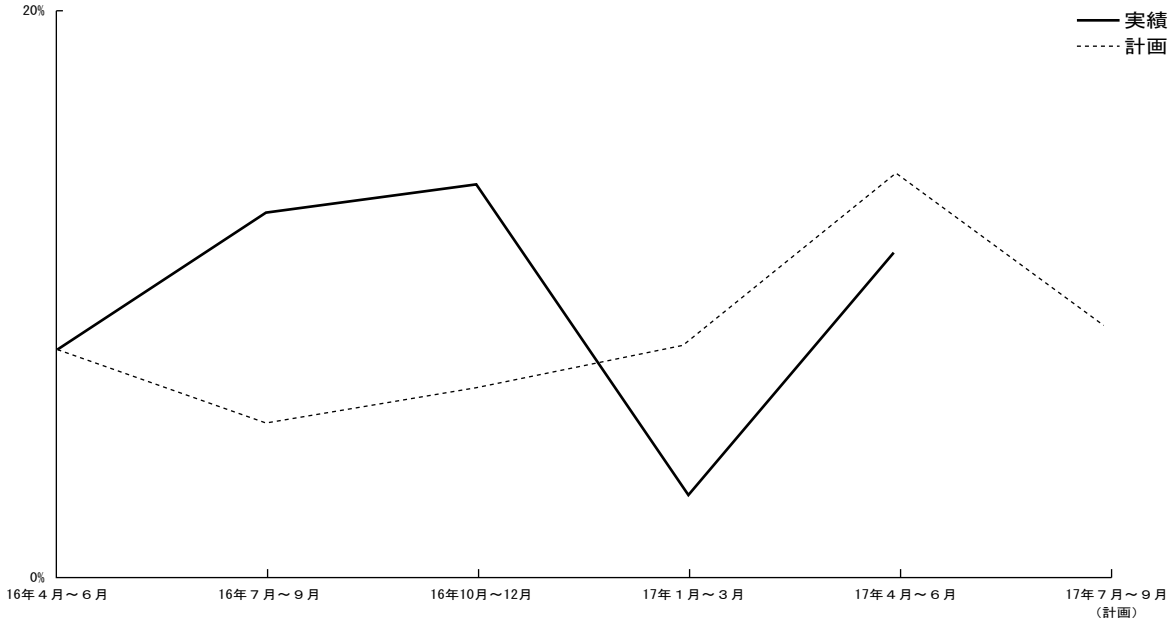

⑶　設備投資

「今期実施」した企業は、前期より＋8.5ポイント上昇して11.4％であった。計画していた企業は14.3％であったので実施した企業のほうが少ない実績であった。

設備投資した内訳は「建物」「付帯設備」「その他」がいずれも25％であった。「車両・運搬具」「ＯＡ機器」は計画段階ではあったものの、実施までには至らなかった。

来期「計画している」企業は今期実施した企業より減少する予定であり、8.8％の企業となっている。

山梨県　サービス業　　設備投資の状況

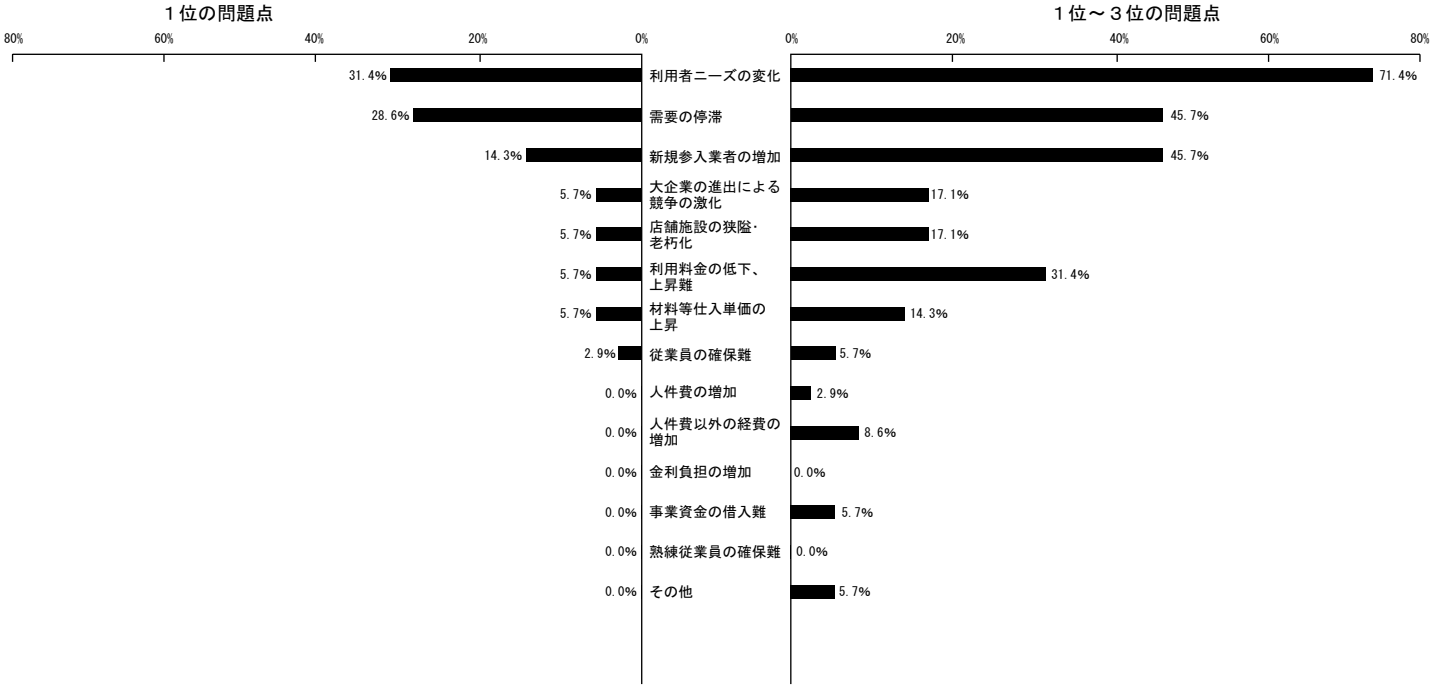


⑷　経営上の問題点

「利用者ニーズの変化」が前期より＋14.3ポイントと大幅に増加して31.4％となり一番多い項目となっている。きめ細かく利用者のニーズに対応すべく模索している企業が多いものとみられる。

「需要の停滞」は四期連続で減少している（今回△5.7ポイント減少）が全体で見ると28.6％と二番目に多い項目となっている。

「新規参入業者の増加」は△2.8ポイント減少して14.3％であり三番目に多い項目となっている。

経営上の問題点で一位から三位に挙げる項目では今期も「利用料金の低下、上昇難」が△2.9ポイント減少し31.4％と四番目に多い項目となっている。

山梨県　サービス業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）